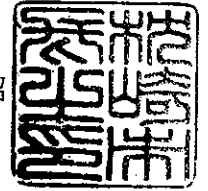




国土交通省 道路局長 殿

枕建管第 48 号
平成19年 5月 7日

枕崎市長 瀬戸口 嘉 昭



今後の道路政策や道路の整備・管理について(回答)

標記について、下記のとおり上申致しますので、お取り計らい方よろしくお願ひします。

記

・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

本市は、九州の最南端に位置しており陸の孤島と呼ばれる中、地方都市にとっての道路は地域産業を支える上で特に重要な役割を成している。また、本市は、特定第3種漁港(平成11年貿易港として開港)に指定されており、日本有数のカツオの水揚量や鰹節生産を誇り、更に花卉(菊)、お茶の産地として活力あるまちづくりに励んでいるところである。

よって、枕崎港に集約される魚介類、南薩摩半島一帯の豊かな農産物・畜産品を低コスト、高速で大都市に供給できるシステムづくりを早急に構築する必要があり、真に地域高規格道路の南薩縦貫道の整備が急務な状況である。また、開通後は九州縦貫道に直結し、地域振興における最大の起爆剤となると確信しているところであるので、重点化を進める上で特に高規格道路の整備をお願いしたい。

・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

- ① 如何にコスト縮減を図りながら、最近の諸問題などについて、国民(住民)から信頼される公共事業となり得るかを重視すべきと考える。
- ② 冬季(12～2月)における工事を極力なくし、債務負担行為、及び明許繰越制度を積極的に活用し、1年中満遍なく工事発注を行うように制度改革に取り組む。
- ③ 真に必要な公共事業か、また、過大設計(時代、地域に応じた)となっていないか、検証制度の確立が必要と思われる。(制度そのものが、真に住民側に立って活用されているか疑問である。)

以上が、住民から見て、効率化を徹底的に進める上で重視すべきことと考えるところである。

・その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関するご意見

現在、合併した自治体の道路整備と同様に、市町村合併がなされていない自治体についても配慮をお願いしたい。また、本市の市街地の幹線道路は老朽化が進み現在の生活環境(歩道幅員等)に合っていない状況であるため、再整備のための予算配分を強く要望したい。

また、管理に対しては、これまで行政主導型で行ってきたが、これからは、住民と一体となった(市民協働)管理も特に必要になってくると思われるため、道路建設(管理)費として、道路財源を地域に応じ自主性を重んじた使途ができる予算配当も併せて強く要望したい。